



## 自転車安全利用 モデル指定都市に



### 独自の循環道を配置

#### 自転車安全利用計画まとまる

国では、このほど「自転車安全利用モデル都市」として、全国で六十三都市を指定しましたが、佐賀県では佐賀市がこのモデル都市に指定されました。

現在、市内には約八万台の自転車保有されていると推定されています。これは市民一人当り〇・五台で、全国平均の〇・二七台を大きく上まわり、「自転車王国」となっています。

しかし、自転車による交通事故の発生件数も全体の約三〇%を占めて、無防備である自転車は歩行者とともに一番危険な状態にあります。

この計画の基本方針としては、まず、市街化区域を重点的に、南・北バイパスを利用し、延長十六キロの升型の自転車専用道と、市街地への流れをコントロールし、一方では、市の中心部へ通じている放射線状の県道・市道にも自転車道を設け、市内各地点を、自転車道で結ぶことにしようというもので、この自転車道は総延長約四十キロに達する予定です。

また、新佐賀駅高架下など四カ所には、約千四百台収容の自転車専用道も設置することになっています。

なお、道路交差点等の実情から自転車道の設置困難な部分については、交通規制を実施する考えです。

自転車道は、①専用道②歩道を利用③歩道を拡張して利用④専用道(車道に線をはいて区分)⑤自動車の進入禁止路線を設定、の六種類の方法により設置確保することになっています。

なお、この計画は、四十八年度から五十年までの三年計画で実施することになっており、市では、このような計画を

### 清潔な町づくりを 赤松地区で推進会議、開く

みんなの力での映画を上映、画面に繰りひろげられる美化運動を赤松地区保健衛生推進委員が、そのあと、伊東本部長が「佐賀国体開催決定の機会を捉えて、日ごろの運動で、清潔な町づくりを推進しよう」とあいさつ。市側から「捨てるな、よさな推進会議」が「散らさない」の三つの運動開かれました。の進め方や佐賀国体の概要の進め方について説明しました。

地区の連絡員、婦人会、公民館、衛生部長などの諸団体の代表約四十名が出席して開かれ、まず鹿兒島國



### 地域ぐるみで交通安全

#### モデル地区に 北川副町光法地区

市民の一人ひとりが交通安全意識を高め、積極的な交通安全活動を推進しようとする。交通安全モデル地区として、北川副町光法地区を指定し、その推進に努めています。今年度は北川副町光法地区を指定しました。

同地区では、モデル地区に指定されたのを機に、このほかに地域のたつ約三百人が参

### 人権意識の高揚を

#### 12月4日から「人権週間」

十二月四日から十日までは「人権週間」です。これは、二十五年前にパリで開かれた国際連合総会で世界人権宣言が採択され、広く世界に公布された十二月十日を人権デーとして記念し、わが国でも「人権週間」として定められたものです。

最近の人権侵害事例では、公害、医療上の事故、労働災害によって健康を侵害されたり、精神障害者等が不当な処遇を受けたという事例も多々あります。また、家族間の諸問題や近隣関係から生ずる人権問題もまたたいてい少なくありません。

そこで、この週間中法務局と人権擁護委員協議会では、関係各機関、団体等の協力をもち、人権意識の高揚を図る各種の行事を行います。

なお、いろいろの人権問題については、佐賀地方法務局(電話21148)や人権擁護委員の自宅に秘密を守り、無料で毎日相談に応じていますので、お気軽にご相談ください。

### 市民ガイド

### 市民ガイド

### 市民ガイド

#### 無料人権相談所を開設

▽日時：十二月六日、午前十時から午後三時まで  
▽場所：市民会館大会議室  
▽相談内容：人権問題、相続、家庭不動産、借地借家の問題などについて相談をお受けします  
▽相談担当者：人権擁護委員と佐賀地方法務局職員  
◎相談の秘密は守ります

#### 下水道事業の受益者負担金

(第二期分)は今月末までに昭和四十八年度に下水道事業が実施される区域「城内一丁目・二丁目(一部を除く)、水ヶ江一丁目(一部)、呉服元町(旧呉服町)」の方は、受益者負担金第二期分を十一月末日までに納めていただくことになっていきます。

もよりの金融機関、郵便局で納期内に納めましょう。

#### 「婦人電気教室」の 会員募集中

九州電力佐賀サービスセンターでは、毎日の生活に必要な正しい電気知識を身につけていただくため「婦人電気教室」の会員を募集しています。

▽募集人員：先着三百人  
▽講習期間：十二月から五月まで(毎月一回)  
▽会費：無料  
▽申込み・問い合わせは、九州電力佐賀サービスセンター(商工会館一階電④2151)へ。

#### 今月の納税

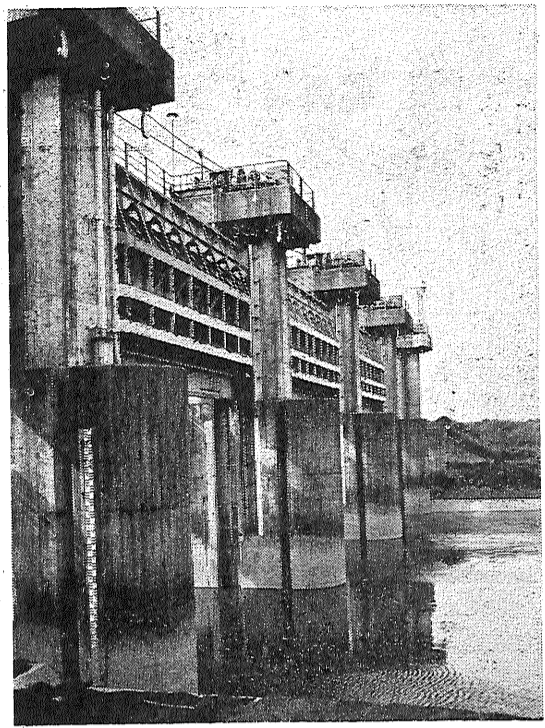
固定資産税・都市計画税 四期分  
国民健康保険税六期分  
納期は、十一月三十日までとなっています。納期内に納めましょう。



# 宿命の

排水不良のため流れが停滞し、部地区の排水体系は、東西に流れて筑後川に流入する佐賀江川を中心排水河川としておりますが、この川は巨勢川、中地江川の排水を受け止めており、八田江川、新川に分水し、有明海、早津江川に排水されるようになっております。

大溝水路については、若宮一丁目から佐賀商業高校の北を通り、大財地区、田代地区を経て佐賀江川に排水してはいますが、途中で十間堀および三間川と接続してはおりません。



近く排水ポンプ工事に着手する蒲田津水門

## 佐賀東部排水対策計画

低地帯で満潮時には有明海の潮位が高いという特殊地形の中にある佐賀市の排水、とくに東部地区の排水を改善し健全な都市基盤を確立するには、国・県を本格的な河川改修等をもってもらう以外にありませんが、さきに県が発表した佐賀江川改修計画について説明します。

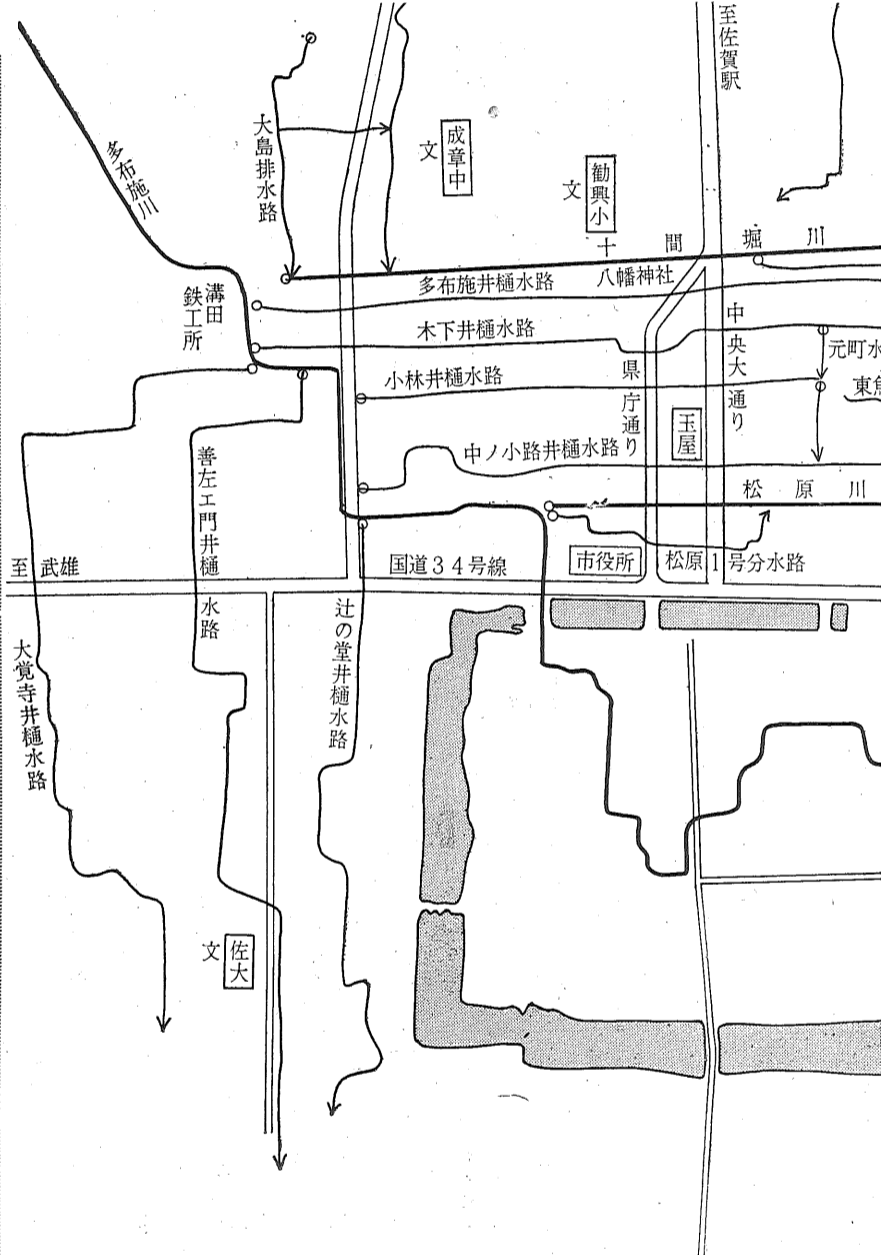
計画対象として三日連続雨量四〇〇、五十年に一度の降雨量を見込んで流域内の排水、排水状況調査、技術的に河道、調節池、ダム、機械排水を効率よく組み合わせつつ経済性を考え、佐賀江川水系全体から眺めた広域的な計画をたてております。

そこで具体的にまず河道計画では、巨勢川下流部は市街化区域であり、現在住家が連なる地区であるため、大幅な改修もできないので、現河道を整備し、河底を下げ流量を多くするような計画です。

中地江川については四十六年度から小規模河川改修事業で城原川へ排水する毎秒十二の排水ポンプを建設中で、各河川の総流出量を調節池・

### 河川改修事業量

河川名	河道延長(m)	改修箇所		事業内容	区分
		起点	終点		
佐賀江川	5,260	蒲田津水門	佐賀線鉄橋下	浦田津水門設置	河道改修
巨勢川	7,360	佐賀江合流点	立込町橋	—	河道改修
黒川	5,360	津流巨勢合流点	金念大和橋	—	河道改修
新川	4,160	早津江合流点	佐賀江合流点	河口地点に排水ポンプ設置	河道改修
八田江川	7,870	八丁井樋	枝吉樋門	河口地点に排水ポンプ設置	河道改修
中地江川	8,500	佐賀江合流点	神崎町蛇取	—	河道改修
計	38,510	—	—	—	—



## 八丁井樋水門改築へポンプ排水に期待

佐賀市東部の東与賀町と川は背後地である佐賀市街地の排水を滞りやすくする原因の一つとして、八丁井樋水門の老朽化が指摘されてきた。この水門は、昭和十一年に建設されたもので、四十一年に改築されたが、現在は老朽化が進み、高潮や台風時には地元の不安がたえず、重要な排水河川である佐賀江川の下流部では河道を整備して流量を増し、下流部で自然流下を補うためポンプ排水をしようという計画です。

要約すると、上流部でダム、調節池により雨水をため、中流部では河道を整備して流量を増し、下流部で自然流下を補うためポンプ排水をしようという計画です。

佐賀市東部の東与賀町と川は背後地である佐賀市街地の排水を滞りやすくする原因の一つとして、八丁井樋水門の老朽化が指摘されてきた。この水門は、昭和十一年に建設されたもので、四十一年に改築されたが、現在は老朽化が進み、高潮や台風時には地元の不安がたえず、重要な排水河川である佐賀江川の下流部では河道を整備して流量を増し、下流部で自然流下を補うためポンプ排水をしようという計画です。

## 排除したい市街地内の水 しゅんせつ、河道改修を急ぐ



市では、水害解消への当面の効果を急ぎ、排水対策として、できるだけ排水時間を短くし、浸水しても早く水を排除させようとする努力と方法を進めております。

その根本対策は、国・県が布設井樋水路、さらに八幡水路や白山一丁目付近で東魚町水路、松原二水路、会所小路、水ヶ江二丁目付

近や市街地での主要排水路であり、市街地東部の大溝川の下流と三間川のしゅんせつや今宿川のサイホン、愛敬町水路約四百、社会保険病院南側水路約二百、神野西から大和紡へ流れる古小川下流部など市街地中心に流れる小川について約三十カ所のしゅんせつ工事を行ないます。

また、そのほか、河川改良費として約六千万を予算化し、十間川下流約二千二百、今宿川約二千二百、古小川約八百、鷹匠川など四百の整備改良を行ないます。

一方、これら都市排水とタイアップして市街地調整区域に流れる本庄江四号支線(多布施川)底井樋から本庄江川

## 市議会 排水対策特別委を設

このほど開かれた第一回の委員会では、国・県へ本対策の早期実現の促進をはかることも、緊急の課題として市内の排水河川ならびに佐賀江など主要排水河川の現地調査を行うことになりました。

調査範囲は、とりあえず来年の水害期へどう対処するかというところ、不法埋立や住宅建設など排水に支障のあるところをチェック、浸水原因の究明にあたります。

佐賀市街地排水の大きな原因である排水不良のネックも下流部のポンプ施設の完成により解消されるわけですが、総工費約八億円を投入し三年計画で工事が進められ、ポンプ施設は水門改築後の約六十の排水規模で、現在具体的計画や事業実施など県・国で検討中です。

また、善左門水路、大覚寺井樋水路の下流、神野公園中折水路の整備・改良も継続して実施します。

今回これら継続事業などのほか、河川しゅんせつ事業費として約一億四千万を計上し、市街地東部の大溝川の下流と三間川のしゅんせつや今宿川のサイホン、愛敬町水路約四百、社会保険病院南側水路約二百、神野西から大和紡へ流れる古小川下流部など市街地中心に流れる小川について約三十カ所のしゅんせつ工事を行ないます。

また、そのほか、河川改良費として約六千万を予算化し、十間川下流約二千二百、今宿川約二千二百、古小川約八百、鷹匠川など四百の整備改良を行ないます。

一方、これら都市排水とタイアップして市街地調整区域に流れる本庄江四号支線(多布施川)底井樋から本庄江川

近や市街地での主要排水路であり、市街地東部の大溝川の下流と三間川のしゅんせつや今宿川のサイホン、愛敬町水路約四百、社会保険病院南側水路約二百、神野西から大和紡へ流れる古小川下流部など市街地中心に流れる小川について約三十カ所のしゅんせつ工事を行ないます。

また、そのほか、河川改良費として約六千万を予算化し、十間川下流約二千二百、今宿川約二千二百、古小川約八百、鷹匠川など四百の整備改良を行ないます。

一方、これら都市排水とタイアップして市街地調整区域に流れる本庄江四号支線(多布施川)底井樋から本庄江川

写真上はしゅんせつを急ぐ十間川

